

テレビ東京グループは  
「全配信時代」に向けて  
新たなコンテンツ作り  
に挑戦を続けてまいります。



株式会社テレビ東京ホールディングス  
代表取締役社長

石川 一郎

Ishikawa Ichiro

皆様におかれましては、平素よりテレビ東京グループに対して格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2021年度上半期は、7月に東京オリンピックが緊急事態宣言下の厳戒態勢のなかで開かれるなど、新型コロナウイルス感染が国内の社会生活にも大きな影響を与えたものの、ワクチン接種もすすみ、経済活動に回復の動きも出てきました。

こうした流れがテレビ広告市況にも追い風となり、テレビ東京グループの連結営業利益は上半期として過去最高となりました。放送事業では地上波放送でスポット売上が新型コロナウイルス感染が広まる前の19年度を上回ったほか、BS放送も上半期の売上高、営業利益が民放キー局系のBS5局でトップとなるなど好調でした。

グループの強みであるアニメ事業は、北米での商品化ビジネスや中国を中心にSNSゲームが好調でした。新型コロナの影響が抑えられたためドラマの制作がすすみ、配信プラットフォームに販売する事業も伸びています。8月に開催した深夜バラエティ『あちこちオードリー』の配信イベントはおよそ8万人に視聴いただきましたが、これまでにないオンラインイベントやコンテンツを今後も開拓してまいります。成長に向けた構造改革が着実に実を結んできています。

中間配当につきましては、前年と同じく一株につき15円とさせていただきますことをご報告いたします。

テレビ東京は、今後、地上波放送のゴールデン帯を中心に同時配信をスタートさせる予定です。グループの方針「全コンテンツ・全配信」のもと、放送の枠にとどまらず日常生活のあらゆるデジタルツールを通してコンテンツをリアルタイムでお届けできるようになります。

テクノロジーの進化と視聴スタイルの多様化が進み、放送業界は「変革の時代」の真っ只中にあります。時代を担うコンテンツ制作、発信者であり続けるため、また株主、視聴者の皆様に元気と豊かな時間をお届けするため、テレビ東京はたゆみない挑戦を続けてまいります。引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。